

和歌山・国際アーケビジネス学校

外国人自動車整備士を育成 志ある若者のため奮闘

自動車整備に従事していたが、新型コロナウイルス感染症の外国人人材の育成が難しくなってきた。影響で外国人が国内に取り組み和歌山県受け現在の学生はわずか約10名。国際アーケビジネスにとどまる。しかし、田原校長は「あきらめたらアカン！」の精神ととも、2019年7月に自に、大志を抱く外国人材の教育に心血を注いでいる。一種養成施設として認可を受け、20年4月からは、接客やエアラインでの専門性の高い業務、国際的自動車整備士のなビジネスシーンでのスキル、同校の系列校である

型コロナウイルス感染症の影響で外国人が国内で働けない状況のため、現状では海外に向けた学生募集ができていない。現在は来日して日本語学校に通っていた人材などが、2学年合わせて8人入学し自動車整備を学んでいる。21年4月からは「業

資格が取得できる「自動車コース」を開講している。工業高校で教鞭をとった後、学習塾の運営などを経て専門学校の設立。さらには、21年4月からは、高き世界でも有数の自動車整備士を育成する「国際アーケ」を開設した。当初は外国から芳氏から「和歌山県の自動車修理工場は後継ぎが

慶風高等学校も、ブルネイの南垣内淳さんなど、ブルネイは所得水準が自動車整備を学ぶ外国人の中には、専門知識・技術よりも日本語の習熟の方が難しく、問題文が分からなかったなどの理由で登録試験に合格できないケースがある。このため「厳しく日本語を学ばせている」と、田原校長は強調する。日本で自動車整備を学ぶ外国人の中には、国費で留学する者もいれば、多額の借金を背負って来日した若者もいる。自動車業界のため、強い志を持って来日した海外の若者のため、同校の奮闘はまだまた熱を帯びそうだ。



外国人整備士の育成に心血を注ぐ国際アーケビジネス学校

ただ、新車整備士資格を持つ人材は、特に現地で重宝されるという。